

校長室だより

日本福祉大学附属高校 2014年2月26日

万人の福祉のために
真実と慈愛と献身を



第54回卒業式が挙行されました

2月22日（土）本校卒業式が美浜町山下町長始め多数のご来賓・保護者・学園関係者の臨席を賜り挙行されました。本校では、卒業式を「卒業証書授与式」（第一部）と生徒会主催の「卒業生を送る会」（第二部）の二部形式で行っていますが、第一部は整然とおごそかに、第二部は感動的に行われました。ご臨席いただきました皆様ありがとうございました。

第一部では、卒業証書授与、皆勤賞表彰、校長式辞、来賓・理事長祝辞の後、卒業生の代表2名が決意を述べてくれました。2人とも、部活動などを通じて学んだことや将来の進路について力強く語ってくれました。



第二部では、在校生発表（2年生全員）として合唱や構成詩の披露に続き、思い出のビデオ上映も。教員は合唱（2曲）と代表教員2名から励ましの言葉を贈りました。それに続き、卒業生全員がステージに立ち、合唱や手紙の朗読を行いました。一人の生徒は家族への感謝を、また一人は将来の進路についての決意を述べてくれました。

退場時には学級ごとにお世話になった先生に感謝のエールを送ったり、保護者席で整列し、「3年間ありがとうございました」と感謝を伝えました。

本校では例年卒業式（第二部）を「最後の授業」と位置づけて1、2年生が卒業生から学ぶ場とし、卒業生からは高校生活で学んだことや1、2年生に伝えたいことを合唱や構成詩で発表してきましたが、今年も素晴らしい伝統を引き継いでくれました。卒業生の皆さん、お元気で。今後のご活躍をお祈りします。

○校長式辞より

「・・・文化祭の取り組みも忘れられません。東日本大震災の津波で石巻市に流れ着いた獅子頭を借り受け、現地を訪問し保存会の方から舞い方を教わり、被災地の郷土芸能を披露してくれた学級。東日本大震災を題材にしたミュージカルや自分たちが受けてきた「ゆとり教育」について考える舞台発表をおこなった学級など、お金やモノではなく文化で東北の復興を支援するという高校生らしい豊かな発想やみずみずしい感性を感じました。また知多半島の果物を使った手作りお菓子を考案した学級など、「社会につながる」というテーマにふさわしいとりくみでした。」



〔卒業生代表の言葉〕

○私は3年間和太鼓部「楽鼓」に所属し、和太鼓のことだけでなく多くのことを体験し、知る機会を得ました。3年前の2011年3月11日、東日本大震災が東北地方を襲い、膨大な数の犠牲者を出しました。1年生の夏、和太鼓部として被災地を訪問し、演奏させていただく機会を持ちました。「震災後、初めて涙が出た。心の塊を溶かしてくれてありがとう。」という言葉을もらい、「被災地の方々はこんなに苦しい思いをしていたのに、希望を持って必死で生きようとしている。私たちもあきらめてはいけない。」と考えさせられた、とても大切な機会となりました。

2年後の3年生の夏、再び被災地を訪れました。多くの方に「ありがとう、ありがとう。」と何度も感謝の言葉をもらいました。2年前と復興への思いがまったく変わっていないことにとても驚きました。被災地の方々は、みんなで助け合っている。一人では決してできないことだけれど、支え合っていけば、誰だって変わることができるのを、被災地の方々から学ばせてもらいました。二度被災地を訪れたことは、とても大きな経験となりました。

この3年間の活動で、私は3つのキーワードに出会いました。

1つ目は、「知ること」つまり知識です。実際の被災地に行くことで直接その現状を知りました。

2つ目は「感謝」。相手を大切に思い、ありがたいという思いで活動すること。

3つ目は「支えあい」。これを持って人と人とがつながっていけるということです。

これらのことで、本校の校訓「真実と慈愛と献身を」につながる大切なことを学びました。私は日本福祉大学に進学します。この3つの精神を持って未来に進んでいきたいと強く思います。(Iさん)

○3年前、私たちは様々な思いや目標を持って、この日本福祉大学付属高校に入学しました。

「真実と慈愛」

私は中学生のとき、友人が人間関係に悩み、学校に来れなくなってしまいました。その時以来「なぜ人は他人を傷つけるのか」「なぜ人と人がうまくいかないことがあるのか」という問いを、心に持つようになりました。そしてその思いは心理学を学びたいという進路選択につながり、いつかこの問いを見つけようと考えています。そして心に悩みを抱えている人たちにとって話しやすいカウンセラーになろうという目標を立て、弱っている人を助けたいと考えています。

「献身」

その目標を実現するためには大学に入ることが大前提です。付属推薦に合格するためには何をすべきか考えているときに、担任の先生に誘われてサッカー部に入りました。部員がもともと少なかったのですが、先輩が語学研修に旅だったあとは、さらに少なくなり、とうとう私一人とマネージャー4人、顧問が2人になってしまいました。私自身はせっかく誘っていただいて入部した部活なので、まずは自分のために一生懸命活動しようと心に決めました。そしてもう一つ、先輩が帰国したとき、寂しい思いをさせてはならないという思いも強く持っていました。この二つの思いで一生懸命頑張ってきました。

苦しかったです、私が頑張れた場所、それがこの日本福祉大学付属高校です。これから私たちはそれぞれがそれぞれの「真実と慈愛と献身を」の校訓を胸に巣立ってゆき、次のステージに進みます。3年間ありがとうございました。(H君)

今度は君たち1，2年生の出番です！

1，2年生全員の皆さんが、卒業生の発表から多くのことを学んだことと思います。部活のお別れ会などでお世話になった先輩たちと挨拶を交わしたことでしょう。

いよいよ、これからは君たちが先輩です。新しく入ってくる新入生に模範となるよう、服装や髪型も含め自分を磨いておいてください。まずは進級することから。いよいよ明日から学年末試験です。最後まで全力を尽くしましょう。